

現されたものとして、銀行側は一応好感を寄せているものの、物価改訂による資金コスト高に早くも日歩三銭への再度引上げを要望している(下関、松山、広島、静岡、高松)。

#### 四、物 価

一般市中購買力の低下と業界の金詰りを反映し闇物価は保合乃至微騰程度にて、公定価格改訂の影響は未だ現われていないが、今後再び上昇に向うものとの観測が強い(各店)。品目別にみると端境期を迎えた米の騰貴が著しく(各店)一升二百五十円を越えた地方もあるが(京都)収穫期に入った麦、馬鈴薯は大幅に下落し(鹿児島、松山、広島)、特に豊作の野菜には公定価格を割るものも少くない(各店)。又繊維品が今後の出廻増加を期待して反落したことは注目される(函館、福島、松本、名古屋、京都)。

#### 五、公定価格改訂の反響

石炭、木材等重要基礎物資二十品目の物価第一次改訂は本月二十三日より実施されたが、予想以上の大幅引上に拘らず、その基礎となる三千七百円ベースは低きに過ぎ改訂物価の崩壊は必至であると見る向きが多い(函館、前橋、高知)。又石炭業に於ても低質炭地方は今回の引上を以てしても採算割を来たすとして不満の色が濃く(福島、札幌)製造業方面は増加運搬資金の調達に苦慮し(函館、静岡、仙台)、商業方面は原価高と一般購買力の低下に愈々窮状に陥るものとみられ(福島、新潟)更に之を契機として労働攻勢の熾烈化も予想されている(下関、函館)。かくて今次の物価改訂は単にインフレーションに追隨した価格倍率の変更に過ぎずとなし(下関)折角の安定意図に逆行するものとして非難する声が高い(熊本、高知)。(黒崎)

### 昭和二十三年七月——九月

#### 七 月 中

#### 一、概 況

政局の不安定、相次ぐ公定価格の改訂、本予算の成立にインフレ再燃の声が強

まりつゝあり(各店)経済安定十原則の発表も現内閣に対する不信感、解散気構えもあつて世論は余り関心を示していない(名古屋、前橋、松本)が、国家公務員法の改正に関するマツカサー元帥の書簡は一般に好感を以て迎えられた(各店)。事業界の金詰りは公価改訂によつて愈々深刻化し(各店)商況は夏枯れと購買力の減退とにより不振を極め(各店)殊に商店街は投売り、福引大売出し等により売急ぎに懸命である(各店)。取引高税に対しては、インフレを促進し、脱税目的の闇取引を醸成するものとして反対の声が聞かれる(小樽、前橋)。

#### 二、預 金

一方に於て本予算成立による政府支払の進捗(大阪、函館、福岡)公団預金の増加(小樽、福島)貸出による両建預金の増加(大阪、小樽、前橋)があつたとはいへ恰も市況夏枯れ期に当り(高知、高松、金沢、大分)盆資金の引出(前橋、静岡、甲府、熊本、鹿児島)納税資金の引出(各店)が多く、それに前月著増の反動(仙台、京都、松山、高松)を受けて、概して伸び悩みの模様である(各店)。農業会預金は、麦、馬鈴薯供出代金の振込にも拘らず、農繁期明け旁々盆を迎えて引出多く納税資金も加わつて之また伸び悩みの状態である(各店)。

#### 三、第一封鎖預金解除の影響

第一封鎖預金は本月二十一日を以て全面的に解除せられたがその影響としては解除後数日郵便局等の引出が目立つた程度で概して平静であつた(各店)。之は法人預金が少くなつてしたこと(岡山、下関、鹿児島)残高が零細なものが多いこと(各店)預金に対する信頼感の回復から却つて之を温存しようという心理が一般に認められること(松江)今日まで封鎖預金を保持していたのはやはり余裕のある者であつて差当つて引出の必要のないこと(大阪)等によるものである。とに角預金に対する信頼感と安心感とを取戻したことは著しいものがあり(各店)一旦引出した預金の再預入更にタンス預金の銀行預入(大阪、新潟)が見られる等今後預金吸収を促進するに与つて力あるものと思われる。金融機関としても負担の軽減により全力を預金吸収に集中することが出来るわけである(函館、青森、前橋、松江)。

#### 四、貸 出

銀行側は先行に対する警戒と今回の融資準則の改正を機として、既往融資の回

収、新規融資の抑制、貸出先の厳選に努めているが(各店)事業界の依然たる金詰りと公価改訂に伴う増加運転資金の需要旺盛(各店)とから貸出は著しい増加を示した(各店)。融資の中、主なるものは、購置資金(各店)織維関係資金(各店)公認証手形融資(小樽、高松、福岡)地方公共団体に対する繋ぎ資金(前橋、高松、鹿児島)製材資金(青森、秋田、鹿児島)水産物蒐荷資金(小樽、函館、青森、福島)等で、事業者の資金調達難が反映して本行に対する融資斡旋依頼の増加が目立っている(広島、下関、福岡)。

#### 五、融通準則改正の影響

本月二十一日金融機関資金融通準則が改正され一日に遡つて実施されたがその影響としては事務が簡略化されたこと(青森、松本、金沢)と産業資金貸出が自主的運用に任されたこと(名古屋、函館、松本)とは好感を以て迎えられたが財政資金の三五%は産業資金を圧迫するものとして反対が強い(仙台、名古屋、下関)。丙種事業資金貸出の不要許可限度は一件三十万円に引上げられたが丙種貸出総額に対する制限(貸出純増加額の1%)は依然据置である為、實際上何等緩和とならず之が緩和の要望が強い(小樽、大分、静岡、松本、熊本)。

#### 六、金利

##### 1 市中貸出金利引上げの影響

臨時金利調整法による市中貸出最高金利が本月一日から三厘引上げられ日歩二銭八厘となつたが市中貸出金利は急速に之に鞆寄せしつゝあり(各店)又丙種貸出は日歩三銭一厘―二厘中心であるが(各店)一部には三銭五厘の適用が見られた(熊本)。事業者としては生産コスト中に占める金利の割合が低い為平靜な態度を持っている(札幌、福島、松本、岡山)。

##### 2 本行公定歩合引上げの影響

本行公定歩合も本月五日から二厘方引上げられたが市中銀行では金利体系の不均衡を是正せんとする本行の意図を諒承し已むを得ぬ措置と見ているが(福島、岡山)一方時期尚早なりとの声も聞かれ(松本)又金融機関としては経費増嵩の折柄之を有力な根拠として一部に貸出金利再引上げの要望が昂まつている(函館、甲府、下関)。事業界では之を本行の金融引締め、企業合理化強行政策

各支店金融報告抜萃 昭和二十三年七月―九月

の表現と見る向きもある(松本、下関)。

#### 七、公価改訂の影響―物価

今般の公価改訂は勤労者の家計に対しては甚だしい圧迫となり(各店)米代の未払家庭続出(秋田)木炭、薪の配給辞退(秋田、松本)等の現象が見られ賃上げ労働攻勢が激化しつゝある(各店)。

購買力の低下により中小企業は競争の激化、売行の不振、製品ストックの増加、資金調達難に苦慮している(各店)。結局今回の公価改訂は事業界の金詰りと購買力減退とを促進することとなつた為、闇値の騰貴を伴わず公定、闇両価格の鞆寄せの形となり企業の合理化乃至自然淘汰は不可避とみる向が多い(名古屋、京都、仙台、甲府、高知)。物価の動きを見るに公価改訂による購買力減退の為実際物価は米(各店)燃料(各店)酒、ビール(松本、高知、京都)等が昂騰した他は一般に保合状態を示し(各店)、野菜は大幅に下落し、織維製品も漸落しつゝある(京都、大分、甲府、下関、鹿児島)。実際物価が公価を下廻っているものは、木材(高知、松江、仙台、松本、岡山、前橋)電気器具(松本、高松)陶磁器(名古屋、高松)石灰石(岡山、高知)銅鉄鋸二次製品、家庭用金物類、木工製品(以上松本)針、燻詰、日用品(以上広島)板紙(岡山)等である。(堀江)

#### 八月中

##### 一、概況

出来秋豊作予想、主食増配の見透しに人心は明朝の度を加えつゝあり(各店)、社会党通貨処埋案の発表、中国幣制改革の報道に一部通貨不安の再燃を見た(金沢、京都、福岡)が、大局的には些したる結果を生じていない(各店)。然し乍ら盆資金の支払、下旬に於ける政府資金の撒布増大は本行券増発の本格化を齎し、インフレ再燃の傾向漸く濃厚となつたかに見える(新潟、静岡、名古屋)。又公務員法改正を機に表面化する国鉄争議の影響大なる(札幌、函館)地方あり、其他労働不安再燃の兆せる(仙台、高松)地方もある。

恒例の夏枯れ、大衆購買力の低下で商況冴えず(各店)、諸物価も主食の下落を中心に下押乃至保合(各店)で、業界の金詰り一段と窮屈化し(各店)、企業界に安定恐慌の様相すら散見する(神戸、高松)地方もある。

## 二、最近の金詰り

最近顕著な傾向として、金詰りに悩む企業と比較的裕りを持つ企業との色彩分  
けが漸次明確化しつつある(名古屋)。又金詰りは消費財部門並に流通部門に特に  
深刻である一方、重要産業への影響はさして憂慮する必要がないとみる向もある  
(大阪)。増加運転資金問題に悩むのは企業が小規模低能率である為か、或は戦後  
乱立の弊が表面化した為である(名古屋)。

## 三、貸 出

公債改訂に基く増加運転資金需要は一部地方を除き本格化し更に公団認証手形  
融資、貿易手形融資の膨脹に加うるに益資金等季節的資金需要著しく市中銀行貸  
出は著しく増大した(各店)。

## 四、預 金

月初の所得税納付、月央の益資金引出(岡山、京都)に加えて夏枯れ商況不振  
(各店)、更に一部通貨不安(広島)等もあつて銀行預金は伸び悩み(主として中旬  
迄)を伝える地方もあるが、(1)前月末撒布せられた政府資金が市場に浸透せるこ  
と(2)物価の横這いに投機資金が一服状態にあること(3)事業会社の増資が本格化し  
つゝあるが之等株式払込資金が一時滞留せること(大阪、金沢)、等により大幅増  
加を伝える地方もある。就中下旬には取引高税実施を控えて各種決済資金の移動  
旺盛を極め、為に三十一日には翌日交換持出小切手と預金との両建勘定が著しく  
膨脹したことの影響は顕著である(大阪)。

農業協同組合預金も夏秋爾代金、麦、芋等供出代金振込に可成の増加を見せた  
(松本)地方も存するが一般的には益資金等の払戻に預金の歩留り状況は香しくな  
い(各店)。従来「貯蓄預金の性格が失われ」所得預金化しつつある(名古屋)と  
も言われる。府県農業会清算事務停滞が伝えられているが(青森、秋田、新潟、  
静岡)、特に預金払戻増嵩の傾向は見られない(仙台、静岡、松山)。

## 五、物 価

公債改訂に刺戟され諸物価強気(松本、熊本)を伝える地方もあるが、一般的に  
は主食下落(各店)を中心に横ばい(広島、大分)乃至下押し(小樽)、弱含み(下関)  
を示している。之が原因としては配給の順調と豊作の見通し(各店)に更に購買力

の全般的低下(下関、松山)等が挙げられている。  
六、金融機構の改革に付いて

司令部指針の発表は金融界のみならず各方面の注目を惹いている(各店)が、何  
分大綱の指示に止まり細目は不明の点が多いため巷の声も単なる臆測の程度を出  
ない(仙台、神戸)半面、我国の立場と実情に即し而も運用面に無理のない制度を  
あわてず考究すべきである(鹿児島)となす向もある。兎角本行乃至大蔵省の権限  
に関する問題にのみ注視している向が多い(仙台、新潟、神戸)が、市中銀行筋は  
一企業に対する融資を自己資本の一定比率に制限する点について最大の関心を払  
い、地方銀行筋は本行の斡旋融資等の大口資金が徒らに地方に分割負担とされる  
ことを懸念している(広島)。

## 七、銀行増資の推移

出足の遅れた支店銀行に比し地元銀行増資に対する応募は順調である(各店)  
が、一般会社増資との競合、封鎖預金も既に撤廃後日を経ていること等の故に困  
難が予想される(函館)地方もある。一般に株主層の変化が顕著である(各店)。又  
各行支店は割当額消化の為に業者に半ば強制し、或は払込資金を他の貸出を行う  
際融資する場合もある如く見える(神戸)。(和田)

## 九 月 中

## 一、概 況

米の豊作予想、主食増配の見透し、物価の横這等によつて国民生活にも漸く一  
抹の安堵感が漂うに至つた(各店)。労働攻勢もこの情勢を反映して鈍化し、茲許  
労資共に形勢観望の状態にある(大阪、京都、福島、高松、熊本)。金詰りは依然  
緩和せられず(各店)商況は取引高税実施の影響もあつて(大阪、前橋、松山)不振  
を極めており(各店)結局この金詰りと商況不振を通じて業界における優勝劣敗、  
自然淘汰の趨勢更に閉鎖経済の後退が弗々表面化して来た点は、謂わば整理過程の  
一兆候として注目に値する(名古屋)。単一為替レート設定に対する業界の関心は  
漸く昂まり軍用レート一弗 $\equiv$ 二七〇円或は三〇〇円見当を基準として不採算企業  
が弗々自己反省を始めた点が目立つが(名古屋)一部には単一レート設定と同時に  
何等かの通貨措置乃至はインフレ利得吸収を目的とする財産税的なものが課せら

れるのではないかと不安を抱く向もある(京都)。

一日から実施せられた取引高税は、手数がかゝること、人手を要すること、資金が固定して金詰りを一層甚だしくすること、及び窮極のところは之によつて経営内容が明瞭となり所得を正確に把握されること等の理由によつて業者側から著しく不評を蒙り(京都、小樽、松本、岡山)又印紙の不正受授、使用後の印紙の売買等種々の違反行為も行われ(新潟、高知、下関、熊本)各地に撤廃の要望が起つている(札幌、神戸、岡山、下関、大分)。

## 二、預 金

銀行増資株払込の為の預金引出し(京都、神戸、熊本)政府支払の不活潑(京都、神戸、青森、高知)等を理由に預金の伸び悩みを伝える地方もあるが、大勢としては預金は著増を来した(各店)。之は政府支払が進捗したこと(大阪、名古屋)救国貯蓄特別運動が効果を挙げたこと(各店)福德定期預金が人気を買ったこと(名古屋、函館、高松)市中銀行が新発足を控えて預金獲得に努めたこと(大阪)等の理由の他、当月は期末のことゝ粉飾が相当行われた関係も見逃し難い(各店)。尚公価改訂後手形交換高が漸次膨脹を示しつつあるが(大阪、京都、下関)この原因は一件当り取引金額が公価改訂によつて増加したこと、金詰りを啣つている事業会社が増加運転資金の必要に迫られて已むなく代金決済を手形によりつゝあること等に求められる(大阪)。

農業協同組合預金は蘭代金(京都、前橋、静岡、松本)葉煙草賠償金(各店)麦代金(前橋、岡山)及び梨、栗、蜜柑等の果実代金(松江、松山)等の流入により順調な伸びを示した(各店)。

## 三、貸 出

銀行側は先行警戒から新規貸出の抑制、回収の促進(各店)担保主義の励行(仙台、松山)に努めつゝあるが公価改訂による増加運転資金需要が漸く全産業に滲透した為(各店)貸出は増加を来した(各店)。貸出のうち主なるものは、蘭資金(各店)織維関係資金(大阪、名古屋、京都、新潟、熊本)加工水産物蒐荷資金(札幌、小樽、青森)水産物蒐荷資金(函館、青森、下関)等の季節的資金の他地方公団体に対する繋ぎ資金(大阪、仙台、函館、青森、秋田、高松)等である。尚

各支店金融報告抜萃 昭和二十三年十月—十二月

信用取引回復の為、本行は之から商業手形による決済を慫慂して来たが増加運転資金需要の擡頭を契機に本行の商業手形の再割引は増高を示しつつある(大阪)。

「中小企業金融対策要綱」に基く代理融資及び損失補償融資が二十日から実施せられたが代理融資に付ては設備資金のみでなくむしろ運転資金を融通してもらいたいとの要望があり(前橋)又損失補償融資に付ては市中銀行の資金繰り逼迫に加えてその損失負担が七割に及ぶことから銀行側は勢い慎重な態度をとり融資実行は撻々しからず(小樽、前橋、甲府、岡山、高松)総じて期待外れの感が強い。

## 四、物 価

公価改訂後既に三ヶ月を経過した今日に於ても實際物価の動向は意外に平静を保ちその間隔値のハネ返り現象は微塵も見られない許りか逆に公価に翰寄せする傾向も出現し殊に需給均衡品の一部には公価を割つて自由価格を再現するものも弗々散見せられるに至つた(大阪)。個々の品目に付てみれば燃料(各店)織維品(京都、甲府、金沢、下関、熊本)靴(京都、広島)鶏卵(静岡、松本)牛乳(静岡、松本)等の如く昂騰したものもあるが大勢は下落の傾向(各店)乃至横這状態(仙台、函館、青森、前橋、高知、福岡)にある。(堀江)

昭和二十三年十月—十二月

## 一、概 況

十 月 中

吉田新内閣の誕生は混迷せる政局に一脈の曙光を齎したものととして労働組合方面を除いては一般に好感を以て迎えられた(各店)。特に金詰りと経営難に悩む事業界方面に於ては取引高税の撤廃、統制緩和を新内閣に期待する向が尠くない。然し一般には新給与ベースを繞る賃銀問題、追加予算財源問題等幾多の難問題の横たわつてゐる現在、従来の財政金融政策に急激なる変化は有り得まいと見てい(各店)。企業金の詰りは依然として緩和せられず特に中小企業内種事業部門にその声は強く(大阪、札幌、仙台、前橋)一般に選択買の傾向並びに同業者間の競